



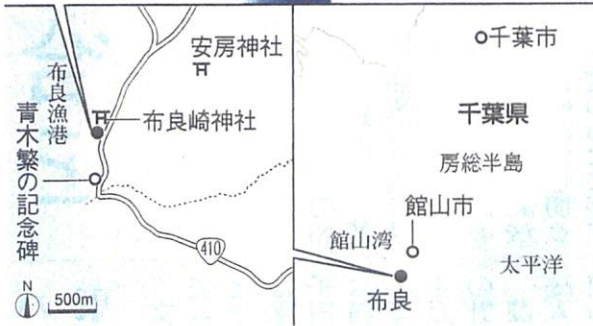
青木繁「海の幸」=財団石橋美術館蔵

小谷家住宅をめぐる動き



- 1904年 青木繁が「海の幸」を描く
- 11 青木が28歳で病没
- 67 「海の幸」が洋画初の重要文化財に指定
- 2005 小谷家先代当主が「後世に残したい」
- 08 布良に「青木繁「海の幸」誕生の家と記念碑を保存する会」発足
- 09 館山市が有形文化財に指定
- 10 NPO「青木繁「海の幸」会」発足
- 12 市が住宅保存をふるさと納税の対象に

明治の面影を残す小谷家住宅。右側の奥座敷で「海の幸」を制作=館山市布良



「海の幸」誕生の家が保存されるの

チーバくんのQ

記者に聞く

1904(明治37)年のひと夏、青年画家が館山市布良の漁村に逗留し、意欲的な作品を残した。それが青木繁の「海の幸」で、洋画初の重要文化財に指定されたんだ。制作現場になった小谷家住宅は今も残り、保存・公開事業がいよいよ来春にも動き出すよ。



Q 「海の幸」ってどんな絵
「裸の男たちがサメを担いで行進している油絵さ。青木は福岡県久留米市生まれ。この年7月に当時の東京美術学校を卒業したばかり。同年代の絵描き仲間3人と布良に写生に来た。宿に泊まっていたが、お金が続かず、小谷家に移ったらしいよ」

Q 絵の魅力はどこにあるの
「『高校時代に出会い、ガー武さんたち画家が中心になってNPO法人を結成し、寄付を募

「仲間の坂本繁二郎は、豊漁」と心を揺さぶられた」と女子美術大学教授の吉武研司さんは言う。構図は独創的で強烈。塗り残しがあったり、輪郭の線が走っていたりする。完成度の低さに不思議な魅力があるらしい

「この家を保存しようと、吉武さんたち画家が中心になってNPO法人を結成し、寄付を募

公開へ寄付募り解体・復元

ってきた。画家が会派を超えて賛同するのは、『海の幸』の強烈な印象に、絵一筋の青木の短い生涯も重なっているんだ」

Q 小谷家住宅の文化財としての価値はどこにあるの
「明治9年か22年の大火の後に建てられた木造平屋で、寄せ棟造り。台所を母屋から離し、分棟型民家と呼ばれている。カヤぶき屋根の時代に瓦ぶき。台所側の母屋の壁は、はげ落ちたけれど、瓦をしっくい貼り付けた海鼠壁で火災対策なんだ」

「武家屋敷の特徴の床の間と付書院(張り出した板張り)が奥座敷にある。一方、細かく仕切った間取りは今日の住宅に近い。館山市文化財審議会の日塔和彦委員は「江戸時代と現代をつなぐ明治中期の貴重な漁家」と位置づけている。海鼠壁などを修復し、建築当初の姿をよみがえらせて公開する計画だよ」

Q 転がり込んだ若者4人を面倒みるなんて余裕あるな
「小谷家は江戸時代から続く漁業家で、船主として指導的な役割を果たしていた。当時の布良はマグロ延縄漁が盛んで、海難事故も多かったけど、繁栄していた。現在の寒村からは信じられないかな。そんな小谷家だから、受け入れたんだ」

「布良の隆盛は、小谷家で昨夏見つかった『諸漁業税帳』から読み取れる。1890(明治23)年度のマグロ延縄船は76隻で、納税額64円60銭。銀座のすし屋は布良のマグロあってこそ、なんて言われた。でも今は過疎が進み、地元の富崎小は昨春に統合された」

Q 地域おこしも狙いの「活性化を探る中で、『海の幸』に行き着いたともいえる。『保存する会』の嶋田博信さんだ。5年前に会長を引き受けるまで、重要な絵が描かれた事実をよく知らなかった。でも今は、『立派なものが浮かび上がった。みんなで盛り上げて、誇りを取り戻そう』と積極的さ」

「小谷家と『保存する会』をNPO法人「安房文化遺産フォラム」が支えている。対象は私邸でも、『まちづくりの考え方が伴わないと、地域の力は引き出せない』と愛沢伸雄代表は言っている。有形文化財に指定した館山市も、寄付をしやすいふるさと納税の対象にして側面支援している」

「集まったお金は目標3600万円にあと一歩。小谷家当主の福哲さんは来春着工させたいと考えている。まず先代当主夫婦が移る居室を庭に整え、次に母屋を解体・復元する。2016年春の公開をめざしているんだ」

▽館山支局・田中洋一記者